

永遠に残ってほしい群生地

古池のミツガシワ群生地 (長野県長野市戸隠)

ミツガシワの和名は三ツ榊で、カシの葉に似た葉が3枚輪生する事による。北半球の寒冷地に広く分布する植物で、湿地等に生える。地下茎を横に伸ばして広がるため、多くは群生する。

戸隠の古池周辺には、見事な群生地がある。背景は戸隠連山から日本百名山の高妻山。残雪の山々を背景にして、一面真っ白な花園が広がる光景は、ミツガシワの群生地としては、日本有数のものであろう。

ミツガシワは筆者の地域では見られなかったが、ある場所で発見されたと報道があった。希少種で、報道を受け、是非見たいという欲求が芽生えたのである。

古池の情報を得た年、大形カメラを携えて、この花

のみのために戸隠に向かった。国道沿いの駐車場から山道を歩く事30分、古池に着き、左に回って奥に進むと、広大な湿原が一面ミツガシワに覆われた光景が出現した。何という見事な風景であろうか。撮影後も、去りがたい思いであった。

撮影からほぼ30年が経過し、古池のミツガシワの状態が気になっていた。インターネットが発達し、画像も多く投稿されるようになった。検索してみると出てきた。健在らしい。ある程度高所なので、近年の温暖化の影響はあまり受けていないようだ。しかし、このまま進めば、やはり消えいく運命にある事は確かなようだ。



妻平湿原のミツガシワ(福井県大野市) 標高が低い湿地で、近年個体数を減らしている。